

総務経営常任委員会 摘 録

1. 開 催 日 令和8年6月26日(火) 第2委員会室
2. 出席委員 五島誠委員長 松本みのり副委員長 谷口隆明 横路政之 堀井慎一郎 桜田亮太
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 佐々木基議会事務局主任主事
5. 説明員 高浦光司総務部財政課長
6. 傍 聴 者 なし
7. 会議に付した事件
 - 1 所管事務調査について
 - 2 その他

午後3時33分 開 議

○五島誠委員長 ただいまより総務経営常任委員会を開会します。ただいまの出席委員は6名です。よって直ちに本日の会議を開きます。本日の会議において傍聴、写真撮影、録音、録画を許可しています。

1. 所管事務調査について

○五島誠委員長 本日は協議事項1点目、所管事務調査についてということで、本会議最終日に閉会中の継続調査事項で当委員会からは4点上げさせていただいておりまして、閉会中も精力的に調査を進めていきたいと思っています。本日は財政運営について、総務部財政課を招聘いたしまして、課長さんも代わられてまた新しい年度になったこともありますので、基礎的な部分からこれから策定をされる予定の持続可能な財政運営プラン、また前回の委員会のときに少しお話が出ました、特に歳入の確保の部分について意見交換も含めて本日举行させていただければと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。それではまず財政計画の最新のものの説明をお願いします。

○高浦光司総務部財政課長 資料をPDFで御覧いただいていると思います。令和7年度庄原市財政計画については、既に市ホームページにも掲載し公表させていただいている資料となっています。ページですが、PDFでいうと2ページ、この計画書のページでいいますと1ページを御覧ください。まず財政計画の基本的な考え方を示しています。本市の財政計画は、これまで新市建設計画や長期総合計画実施計画に基づいて各年度において見直しを行って、健全な財政運営の指針として策定をしています。中段では、平成27年度に実質公債比率が18%を下回ったことや普通交付税の合併算定替の終了に対応するために第2期持続可能な財政運営プランに取り組んできたことなど、これまでの経過について記載しています。下から3行目ですが、令和7年度財政計画について、第3期長期総合計画の将来像「安心な暮らしが充実し、庄原に関わる人の未来がつながっていくまち」の実現に向け、普通建設事業などに要する市債の計画的な発行と一般財源の確保に努め、健全な財政運営を図る指針として位置づけています。それでは続いて2ページを御覧ください。こちらで財政計画の策定方法をお示

ししています。まず全体的事項のうち基本的事項ですが、令和6年度は決算数値、令和7年度は1月補正予算までを反映した決算見込み数値として計上しています。令和8年度以降は、令和8年度当初予算をベースとして決算数値をもとに各項目の特殊事情などを考慮して推計をして、令和13年度までの計画として策定しています。次に事業計画と市債充当額につきましては、後年度の実質公債比率の上昇を抑制した上で各年度の投資的経費に充当可能な一般財源と市債の発行可能額を算出し、想定事業費を計上しています。次に持続可能な財政運営プランの取組につきましては、令和7年度で計画期間が終了した第2期プランに沿った取組効果額を令和8年度以降も堅持し、各年度の歳入歳出に反映をしています。なお歳入における一般財源の伸びが見込めない中、物価や労務単価の上昇などから市民サービスに必要な経費の高止まりが見込まれることで、財政収支の悪化が推計されるため現在策定作業を進めています第3期行政経営改革大綱を踏まえて、新たな財政運営プランを策定し財政健全化に向けた取組を実施することとしています。続いて、計画書の3ページを御覧ください。まず財政計画の対象とする会計ですが、一般会計、住宅資金特別会計、歯科診療所特別会計、休日診療センター特別会計を合わせた普通会計として計上しています。次に各年度の数値につきまして、令和7年度の決算見込額は1月補正予算までの予算額と令和6年度からの繰越予算額の合計から令和8年度への繰越予算見込額を控除した額を計上しています。また令和8年度の推計額は、令和8年度当初予算額と令和7年度からの繰越予算見込額の合計としています。それでは総括表について区分ごとに特徴的なところを説明します。まず歳入ですが、市税のうち個人市民税について各年度の人口の推移や中長期の経済財政に関する試算で示されている実質GDP成長率、これまでの決算数値を加味しており、固定資産税につきましては3年ごとの土地家屋の評価替えの影響を加味し積算しています。次に地方交付税では普通交付税について、基準財政需要額の個別算定経費を物価高への対応分などから令和8年度で1.5%の増を見込み、令和9年度以降は一定の伸びを見込むものの基礎数値の減少による影響などから伸び率が毎年約0.2%縮小していく推計としています。続いて臨時費目についてですが、地域の元気創造事業費に価格転嫁分が創設されることなどから、当初決定ベースで0.8%の伸びを見込んで令和9年度以降は横ばいとして普通交付税を算定しています。次に市債ですが、令和9年度以降の普通建設事業に対する発行額につきまして、後年度の実質公債比率や交付税で算入される額を除いた実質的な元利償還金の上昇を抑制した上で算出したほか、過疎債のソフト分の発行限度額見込み、水道企業団の計画に基づく水道出資債の発行額などを踏まえて整理しています。続いて歳出ですが、人件費では令和8年度は人勤制度改正に伴う職員給、会計年度任用職員等の増額分を見込み、令和9年度以降は人勤制度改正の影響額として、令和6年、7年度の伸び率を反映し、職員給をプラス2%、会計年度任用職員を平均でプラス3.4%を見込むとともに、それぞれ新陳代謝による減額を反映させて積算しています。次に扶助費では、社会保障給付費などの上昇に対して人口減少による影響を勘案し、経常経費分について令和9年度以降0.6%の減として推計をしています。次に公債費では、これまでに借り入れた既発債の元利償還金の積み上げに加え、計画分として各年度の投資的経費などに対して発行する市債の元利償還額を反映しています。次に投資的経費では、普通建設事業について令和9年度以降、実質公債比率などの上昇を抑制した上で想定事業費を計上しており、財源として市債を25億円、一般財源を3億5,000万円として積算しています。災害復旧費につきましては、令和9年度以降、現年災害復旧事業費を令和8年度当初予算ベースの約2億5,000万円として計上をしています。続いて4ページを御覧ください。基金の状況についてお示ししています。基金繰入では、財政調整基

金について、先ほど説明しました歳入歳出の収支不足を補うため令和9年度以降各年度において4億7,000万円から5億7,500万円程度の繰入が必要となる見込みを立てています。減債基金につきましては、臨時財政対策債の償還に対して、普通交付税の追加交付で措置されたものを基金に積み立てており、償還を予定している各年度で繰り入れるものです。次に基金積立では減債基金について、先ほど説明しました普通交付税の追加交付分を将来の臨時財政対策債の償還に充てているため、各年度で積立を行うものです。基金残高では、財政調整基金について、一般的に標準財政規模の10%から20%が適正と言われている中で、令和9年度以降の取崩額を反映した結果、令和12年度には11億8,432万円となり、その率を大きく割り込む推計となっています。続いて5ページです。経常収支比率ですが、令和7年度以降98%台で推移する見込みとしています。これは本市の財政力指数が0.26と低く、普通交付税の算定における地方税収入の割合が小さいため、そのうち自由に使える留保財源が少ないという財政構造上の要因に加えまして、今後、市民サービスの提供に必要な経常的な経費の高止まりが見込まれることなどから、数値が高く財政の硬直化による自由度が少ない状況が続くものと考えています。次に投資的経費につきましては、先ほど来説明していますとおり、令和9年度以降、市債について25億円、一般財源を3億5,000万円とし事業費39億円を計上しています。続いて6ページです。まず年度別市債発行予定額ですが、令和9年度以降、災害復旧事業債は現年災害復旧事業に係る1億5,480万円、水道事業出資債は水道企業団の計画額を計上しています。次に実質公債比率の将来推計では、市債の発行を計画的に行うほか交付税算入率の高い有利な市債の発行に努めることで、おおむね11%台で推移するものと見込んでいます。最後に市債残高の将来推計ですが、年次的、計画的な借入により圧縮していくことで、将来的な公債費負担を軽減してまいりたいと考えています。以上で財政計画の説明を終わらせていただきます。よろしくお願いします。

○五島誠委員長 それではまずこの財政計画の説明をいただきましたけれども、皆さんから質疑があれば、これを許します。質疑はありますか。

○松本みのり副委員長 基金残高について、1番には財政調整基金のことがどう推移していくのかが挙げられるのですが、第3期行政経営改革大綱の素案の中では、公共施設の更新に係る費用の基金が県内他市に比べて本当に庄原市は極めて少ない状況が出てきます。そこをこれから積立を増やしていこうとかいう計画は立てておられるのか、お伺いしたいと思います。

○高浦光司総務部財政課長 今、お話をいただきました公共施設の修繕等に関する基金ですが、現在庄原市につきましては、目的として公共施設に対するものは持っていない状況になります。今後についてですけれども、本来といいますか、そういった基金を積み立てて備えておくことは非常に重要な考えになってくると思いますが、現時点で財政調整基金を将来的に取り崩さないと収支均衡が図れないというようなところもありますので、そういった財政運営上の課題と調整しながら、今後の積立について検討をしていければと考えています。

○五島誠委員長 他にありますか。

○桜田亮太委員 もう一度説明をいただきたいのが減債基金、地域振興基金が計画では9年度までしか入っていないのですが、このあたりは現段階でのということか。

○高浦光司総務部財政課長 まず減債基金から御説明をしますと、こちらは令和5年度、6年度、7年度と各年度で普通交付税で臨時財政対策債の償還に充てるための財源として追加措置がされています。それをそれぞれ普通交付税の措置があった年に積み立てておいて、例えばですが、令和5年度に積み

立てたものについては、令和6年度と7年度の臨時財政対策債の償還の一部に充てることで、交付税の追加交付の際の一応条件が示されています。そういったところから令和7年度まで現在追加交付がされておりまして、追加交付があったものを積み立てて、それぞれの向こう2年間の臨時財政対策債の償還に充てていくという整理をさせていただいているものになります。それ以外の積み立てというのが、庄原市については減債基金をほぼ持っていない状況ですので、今の臨時財政対策債償還分を現在は積み立てて取り崩すというような処理をするというものになります。もう1点、地域振興基金についてですが、こちらは合併時に造成しています基金が主なものになっていますが、こちらについては条件として新市建設計画に計上をされた事業に充当が可能となっています。新市建設計画自体は令和6年度で終了しています。そういったところから、基本的には令和6年度までの事業にこれまで、例えばですが、超高速情報通信網の整備であるとか市民会館の整備、そういったところに活用をしてきた経緯がありますが、現在で言いますと、消防組合の本部庁舎の建設にかかる事業費の一部に充当をしていくことで活用をしているものになります。令和8年度については、市民会館のプロジェクトの購入経費に充てることで整理させていただいているものになりまして、今後そういったかつての新市建設計画に合致するような事業があれば、取り崩しはできるのですが、現在まだ国から将来的な活用方針的なものが示されておりませんので、その活用方針的なものが示され次第、改めて今後の利活用についても検討していくことにしています。

○五島誠委員長 他にありますか。

○横路政之委員 総じて基金を取り崩して帳尻を合わせていかないと予算が組めないというのが8年度以降も続くと。このままいけば14年ぐらいからゼロ、枯渇。今日の行政改革審議会の答申で細かな説明が出ました。その中を見てみると、補助金にしる全てゼロベースでガツツと行うような印象を受けたのだけれども、そういう行革の答申を受けて、来年に向けての財政計画を立てますよね。そうなったときにこの基金をせめてあと2年は崩さないともたない。それ以降は崩さなくても、少しずつでも貯められるような計画というのは頭の中に持っておられるのか。この年度ぐらひはもう基金なしでもいいけるような中身、削れるものは何もかも削って、歳入もいろいろ工夫しながら。そういう構想を持っておられるのか。

○高浦光司総務部財政課長 財政調整基金の取り崩しであったり、残高見込みについてですが、言われるように、現在行政経営改革大綱が策定されている中で財政運営についての取組も大きな方針が示されることで整理が進んでいます。そちらに基づいて、これから財政運営プラン、これは仮称になりますが、立てていく中で、この基金についていきなり取り崩し額をゼロに持っていくというのは非常に難しいと考えています。年次的にそのプランに基づいた効果額を出していけるような形で整理していく必要があるものと考えておりまして、その中で、いわゆる標準財政規模の10%から20%が適切数であろうというようなことが言われている中で、この財政調整基金についてその範囲内で残高が保てる形でのプランの策定を目指していきたいと考えています。

○横路政之委員 令和13年まで計画がある。だから、ここまではもうしょうがないというような感覚なのか。それよりももっと前倒してできればやりたいのか。どちらなのか。

○高浦光司総務部財政課長 現在お示ししています令和7年度の財政計画につきましては、今後の財政運営プランの効果額というのは一切加味できていない状況になりますので、今年度策定をして令和9年度以降の予算に反映することで、こちらの数値は当然改善をさせていく必要があると考えています。

この 13 年の数字まで仕方がないというわけではなく、ここよりは当然改善をするようなプランを立てていく必要があると考えています。

○五島誠委員長 他にありますか。

○桜田亮太委員 今の話に関連して、先ほど言われた今日の行革の説明では標準財政規模 15%という話もあったと思うのですが、横路委員が言われたように 13 年の、これはあくまで推計ベースでいくと今こういう数字だとはいえ、そうはいっても今後物価高の影響その他で毎年取り崩す感じがそんなに変わるような見込みがない中で、数字的に今後の流れが劇的に変わるような全然違う表かといえばそうでもないと思う。だからある程度の段階でシビアに財調なども気にして見ていきたいという横路委員の思いだと思う。具体的に今物価高対策その他の公契約にしても、かかった費用などはしっかり国が交付税で見てくれるような、私も別の資料とかで見たことがあるのですが、その辺の反映は交付税には書かれているのでしょうか。

○高浦光司総務部財政課長 今言われた、いわゆる価格転嫁に対して交付税措置があるかですが、令和 8 年度の普通交付税の算定におきまして、いわゆる価格転嫁分が交付税でいいますと臨時的経費として、さらに具体的に言うと地域の元気創造事業費に国全体で 1,000 億円が措置されています。そちらの中から庄原市も基礎数値といいますか、根拠になる数値を出していますので、算定されて措置されてくることになると考えています。

○桜田亮太委員 今の物価高分とかに対して満額ではなくても、簡単に言えばその貯金を崩さなくてもある程度は賄えるような財政措置がしていけるということではないのでしょうか。

○高浦光司総務部財政課長 今言われたとおり、幾らまでというところはなかなか算定が難しいのですが、一定の措置は国でも考えておられるということで、交付税で措置をされてくることになっています。

○五島誠委員長 他にありますか。

○谷口隆明委員 先ほど決算基金残高は 1 月 31 日現在の補正の段階でと言われましたけれども、5 月に出納閉鎖して基本的にはこの金額で基金残高があまり変わっていないのかどうかお伺いしたいと思います。

○高浦光司総務部財政課長 こちらでいいますと現在、決算に向けた作業を進めているところですが、令和 7 年度末残高でいいますと、約 41 億円で決算になるかと思います。

○五島誠委員長 他にありますか。

○堀井慎一郎委員 今年度、次の財政計画もつくられるということで、数字については若干動いてくる可能性もある話だと思うのですが、庄原市でいろいろなものが令和 8 年度予算について、補助金についてはなかなかスクラップはできませんでしたと。全体的に見ると若干、補助金のメニューも増えていて、多少令和 7 年度よりも膨らんでいるような状況になっているのではないのかなという感じを受けている。来年度以降、前財政課長も補助金については課題認識を持っておられたというところで、今年度中に幾らかスクラップをしていくという状況にあるのか、またその音頭をどこがとるのか。財政課で音頭をとられて一律何%カットというような従来のやり方はしないという説明もあったように思うのですが、どういう基準で見直しをかけていこうとされているのか思いをお持ちでしたら教えていただきたいと思います。

○高浦光司総務部財政課長 まず令和 8 年度の補助金の状況からお話をしますと、農業であつたり林業

といったような本市の主要な産業を振興していくということも含めて、増額した補助金が多くあります。ただ、特に林業についていいますと森林環境整備基金といったような、財源の活用をして増やしたというようなところもあります。一方で補助金の中には、例えばですが、下水道事業への補助金ということで、いわゆる繰出金的な補助金が大幅に伸びているところがあります。そういったところから全体的に伸びています。そうした中で財政運営プランを今後つくっていくことになりますが、まず補助金については財政課がいわゆる主となって整理していく必要があると考えています。ただ、先ほど言われたように第2期のプランのように一律に何%カットという形では、なかなか今後の財政運営を考えた上では、十分な効果が発揮できないというようなところもありますし、庄原市補助金の数が非常に多くあります。そういったところから交付に係る事務の関係も非常に多くなっているところもあるかと思います。そういったところがあることと、今後どのようにしていくかといいますと、基本的に補助金については、3年間の期限付で要綱を現在は整備をしているというのが原則ですが、庄原市についてはそういった3年間の更新を迎えるものを特に中心に、順次その後について検討していくやり方も一つあるのではないのかなと現在は考えています。せーので全てを行うというのは、補助金ですので、相手方がおられるものも多くあり、そういったところの調整を進めていく上では一気に進めるというのは難しいと考えています。区切りを迎えるものについて特に順次整理していければと考えています。

○五島誠委員長 他にありますか。

○谷口隆明委員 総括表で歳出が義務的経費と投資的経費に分かれているのですが、話があつたいわゆる準義務的経費的な補助費とか物件費とかそういうものは財政プランを立てられると思うのですけれども、この総括表には前からそういうのは入っていないのですか。

○高浦光司総務部財政課長 今言われたのは、3ページの総括表でよろしいでしょうか。そちらでいいますと、歳出の欄のその他のところに物件費でありますとか維持補修費、補助費等といったような経費は整理させていただいています。

○谷口隆明委員 それが分かるようにしたほうが分かりやすいのかなという意味で言いました。

○五島誠委員長 他にありますか。

○桜田亮太委員 市債残高ですが、一見年度を追うごとに減っているわけですが、よく広報紙などで出る人口1人当たりの残高、そういったもので考えていくと、これから人口が減っていくわけで、それでも1人当たりとしての負債も減っているということではないのでしょうか。具体的に数字が幾らかというのは出さなくてもいいのですが。

○高浦光司総務部財政課長 市債の残高ですが、合併以降でいいますと、大幅に減らしてきたというところがあります。現在、令和6年決算以降の推計をしたところ、令和10年ぐらいまでは、もう既に借り入れた市債が多くありますので残高というのが大きく動いてこない。むしろ令和9年度については一旦増えるというような推計も立てています。そうした中で、先ほど申しましたとおり、令和7年度までに既に借り入れたものと、これから令和8年度以降借り入れるものの残高が逆転するのが令和15年頃になってこようと思います。それまでにしっかり内容を精査しながら、市債の発行についてはコントロールをしていきたいと考えています。

○五島誠委員長 他にありますか。ここまでのところで一旦質疑を閉じさせていただいて、先ほど少し話が出たのですけれども、今、行政経営改革大綱が7月7日には答申をされて、大綱自体が完成に向

かっていくことで今日も報告を受けたところです。大項目5番、財政資源の最適配分のところで、持続可能な財政運営プラン（仮称）ですけれども、この取組によって進めていくことで行革大綱を受けて今度、新たな持続可能な財政運営プランをこれからつくっていかれることになると思うのですが、ある程度の方向性についてはもう既にこの行革大綱の中に盛り込んであるかと思います。委員の皆さんも、ぜひ今日いただいた議員全員協議会資料の行革大綱の47ページからまず見ていただければと思います。その中で基礎的なところでお伺いしておけばと思うのですが、この持続可能な財政運営プランをどのような形でつくられて、いつ頃完成して、実際に具体化をどのように、スケジュール的なところですよ。それから特徴的な方向性といいますか、特徴的な部分というか、今現在のところで課長が思い描かれている部分がありましたらお伺いをしていただければと思います。

○高浦光司総務部財政課長 プランの策定についてですが、まずスケジュール的なところでいいですと、令和9年度の当初予算には何らかの形で反映をし始めていけるような形で整理はしていきたいと考えています。内容につきましては、今の行政経営改革大綱を受けてという形になりますので、現在でいいですとこれまでのいわゆる財政状況の分析を中心に整理させていただいておりまして、これからどういった具体的な取組が有効なのかというところを検討しながらプランの策定をしていくことで考えています。

○五島誠委員長 では引き続いて、財政計画並びに持続可能な財政プラン、これからつくるものについて質疑ございましたらお伺いしておきたいと思います。

○高浦光司総務部財政課長 令和9年度の当初予算に反映することになりますと、秋にはお示しをしなければいけないのかなと考えていますが、大綱を受けてになりますので、急いでといいますか、しっかり作り込んでいきたいと考えています。

○五島誠委員長 ほかありますか。よろしいですか。それから今日の冒頭に少しありましたけれども、歳入の確保について当委員会では少し重点的に調査を行って市長にも提言ができるようにしてまいりたいという青写真を持っているわけなのですけれども、こちらについても持続可能な財政運営プランであるとか、特に行革大綱にも10項目の中で歳入の確保というところがあるわけですので、それから令和8年度当初予算の編成方針からも含めて、この歳入確保については全課長も含めて、かなりこれからしっかり行わなければいけない。いろいろな案というか、そうしたものもありながら、今後どうしていくのかというところで、まず、ふるさと納税であるとかネーミングライツであるとか、そうしたものの取組を少しずつ進められている、まさに新たなスタートを切られたようなところであるかと思う。課長の所見がありましたら、伺った後に質疑を行いたいと思います。

○高浦光司総務部財政課長 歳入確保というところから、先ほど少し言われたように、庄原市のふるさと納税が現時点でいいですとおおむね7,000万円程度で数年推移している状況にあります。そちらを令和8年度では予算ベースで1億2,000万でと行革大綱でも案として示されていますが、そこをどんどん伸ばしていく、令和8年度から中間支援事業者を入れていくことで既に取組を始めておりまして、担当課に確認をしたところ、ホームページ等についてももう既に手を加えていっているような状況にあります。そういった中で今後こちらを伸ばすことで、臨時的な歳入にはなりますが、大きな歳入確保を目指していきたいと考えています。もう1点ふるさと納税の絡みでいいですと、企業版のふるさと納税につきましても事業者との連携によりまして受け入れを伸ばしていきたい。こちらは近年でいいですと1,000万から2,000万というような状況で収入している状況ですが、今後取組を強化してい

く必要がある項目だと考えています。言われましたネーミングライツの件ですが、こちらは財政課が主管で進めさせていただいておりまして、令和8年4月からみどり信金ホールということで、みどり信金さんにネーミングライツパートナーとなっていて、取組を進めています。今年度につきましても何施設かは新たにこの制度を導入することで、歳入確保を図っていきたいと考えています。

○五島誠委員長 それでは委員の皆さんから質疑等ございましたら受けたいと思います。

○松本みのり副委員長 ふるさと納税について、今までのところ7,000万円程度の納税があったということなのですが、かなり委託料ですとか返礼品にもお金がかかってくるものと思うのです。7000万円のうち実質庄原市のプラスになっている額はどの程度になっているのでしょうか。

○高浦光司総務部財政課長 基本的には制度として返礼品が3割以内で、経費を含めて5割以内というところがありますので、入ってできたものの半分は庄原市の実質的な歳入になっているものと考えています。

○松本みのり副委員長 今までのところは3,000万円少しぐらいが入ってきて、令和8年度は1億2,000万円を目指すのならば半分の6,000万円程度が、というところよろしいでしょうか。

○高浦光司総務部財政課長 言われるとおりだと考えています。

○五島誠委員長 他にありますか。

○桜田亮太委員 いわゆる自主財源を我々としても高めたいなと思うところがありまして、今のようなネーミングライツやふるさと納税に着目したいというところがあるのですが、何か案があったら教えていただきたいのですが。難しかったら結構です。

○五島誠委員長 そうしましたら暫時休憩とします。

午後4時21分 休 憩

午後4時41分 再 開

○五島誠委員長 休憩前に引き続いて会議を再開します。他に質疑ありますか。それでは執行者の退席を求めます。今日はお時間いただきありがとうございました。では執行者御退席の間、暫時休憩とします。

〔執行者退席〕

午後4時42分 休 憩

午後4時43分 再 開

2 その他

○五島誠委員長 休憩前に引き続いて会議を再開します。それでは先ほどは財政運営についての意見交換とレクチャーを受けたわけですが、今度は視察行程表を御覧いただければと思います。こちらの説明は事務局いいですか。

○佐々木基議会事務局主任主事 行程表を御覧いただければと思います。神石高原町への視察というこ

とで、日程の案を提示します。昼からの視察ということで、神石高原町内で昼食をとってから神石高原町役場で3時間程度視察ということで、1時半から4時頃の案で進めさせていただいています。大型の公用車で行かせていただく予定ですが、本庁の公用車が既に使用予定なので支所の公用車を借りて行こうと思っています。7月の中頃までに質問等あれば提出してくださいとのことでしたので、質問事項等あればいただければ提出しますので、よろしくお願いします。

○五島誠委員長 それではただいま事務局より説明させましたけれども、7月24日の神石高原町視察についてです。予定では、先ほど申したとおりなのですが、遅くとも17時にはこちらへ帰ってくる予定になっていますので、御予定をよろしくお願いします。また、7月10日前後までにはというところでしたので、皆さんもしお時間が日程的に大丈夫でしたら7月10日の10時から次回委員会を開催させていただければと思うのですが、皆さんいかがでしょうか。よろしいですか。それでは神石高原町の資料等々につきましては、神石高原町ホームページなどを活用いただいて少し個人的に見ていただきながら、ここはどうかというところについて、事務局にメールでいただければと思いますので、よろしくお願いします。また8月がいいかなと前回言っていたのですが、視察で飛騨市に行くかどうかという話があったかなと思います。これについても7月10日にしっかりと話ができればと思いますので、皆様、案を持ち寄っていただければと思います。随時、事務局を通して議長・副議長とも話をさせていただければと思いますので、よろしくお願いします。そのほか皆さんのところで何かございましたらお伺いしたいと思います。

○横路政之委員 ふるさと納税についてという一本ですか。

○佐々木基議会事務局主任主事 財源の確保、ふるさと納税の項目があるので、そのくくりの中なら大丈夫です。

○五島誠委員長 そのほかいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○五島誠委員長 よろしいですか。それでは以上で本日の委員会を閉じさせてください。

午後4時48分 散 会

庄原市議会委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

総務経営常任委員会

委 員 長